

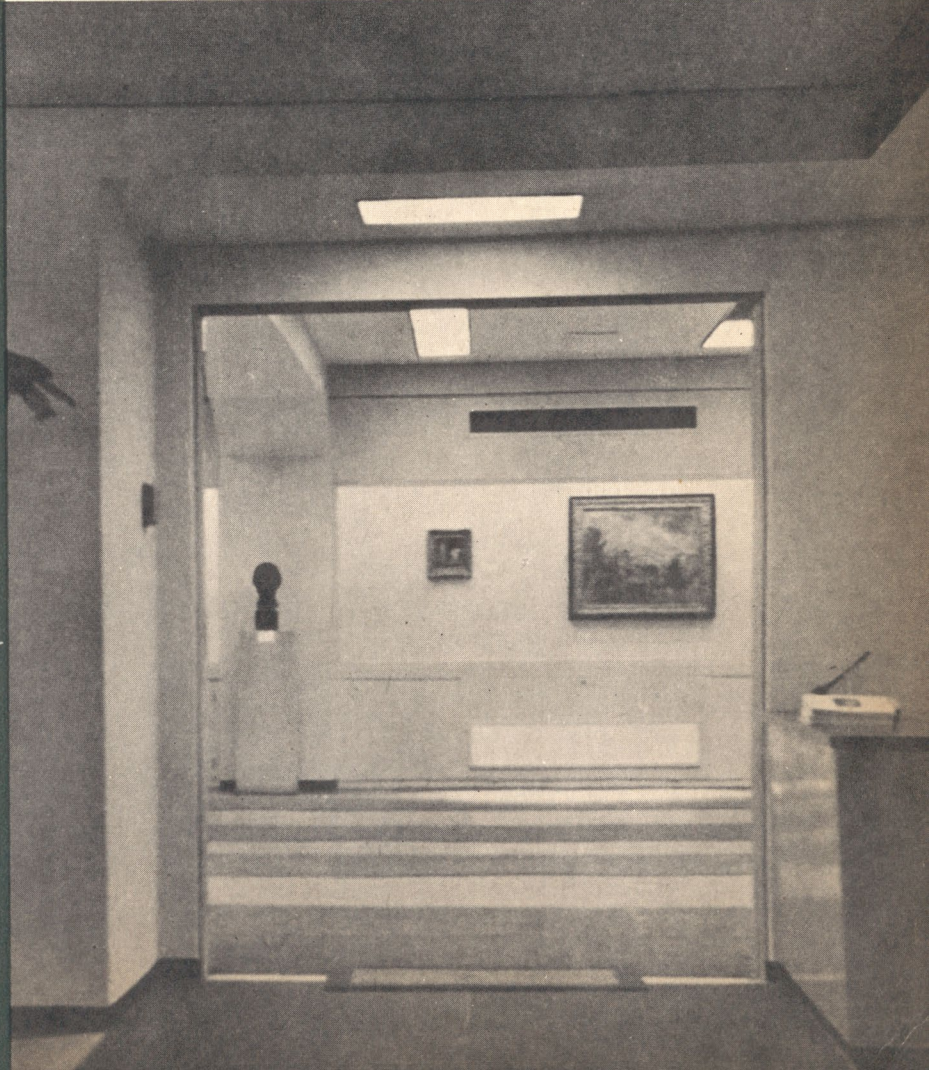
1 9 5 6

# ブリヂストン美術館

## 館 報

4

BRIDGESTONE GALLERY

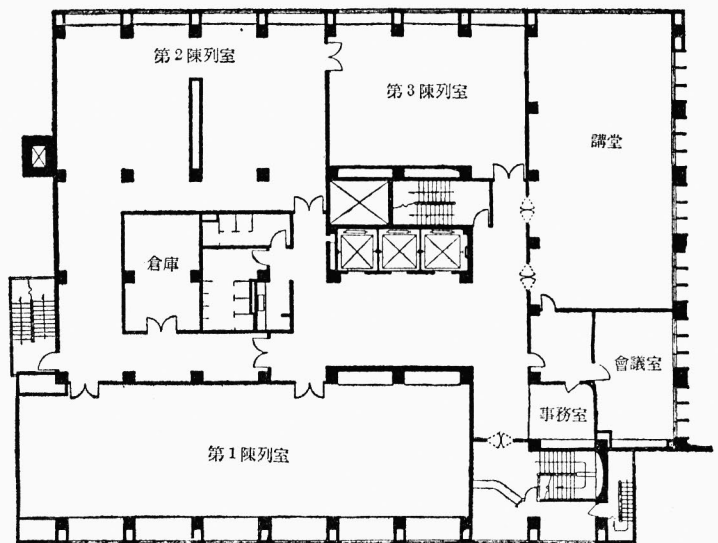




1956

ブリヂストン  
美術館  
館報

1955年度記録



## 目 次

1 設 立 趣 旨	1
2 位 置 及 び 設 備	1
3 機 構 並 に 運 営	1
4 開館時間と入場数	2
5 昭和30年度入場者一覧	2
6 ブリヂストン美術館作品目録	3
7 追加新展示作品	9
8 藤島武二特別陳列	9
9 藤 田 嗣 治 展	9
10 旧福島コレクション展	10
11 平賀亀祐滞仏作品展	11
12 現代アメリカ版画展	12
13 ヘンリー・ミラー水彩画展	12
14 山本豊市作品展	13
15 荒井龍男帰朝展	13
16 墨人会書道展	13
17 ユトリロ、ヴラマンク巴里風景版画展	14
18 ピカソ、マチス、ルオー、ボナール作品特陳	14
19 現代イタリア美術展	14
20 青山義雄滞欧作品展	16
21 第2回旧松方コレクション展	16
22 土 曜 講 座	17
23 音 楽 講 座	18
24 レコード・コンサート	19
25 夏 期 講 座	19
26 美 術 映 画 製 作	19
27 雑 報	20
28 講 演 筆 記	20



## 設 立 趣 旨

ブリヂストン美術館は、石橋正二郎氏が多年に亘つて蒐集愛蔵した内外の美術品を、社会公共の為、また文化向上の一端に貢献し度いという趣旨に基き、開設されたものである。

## 位 置 及 び 設 備

**名 称**——本美術館は“ブリヂストン美術館”と称し、英文では“BRIDGESTONE GALLERY”と記す。設立者石橋正二郎氏を記念し、その姓を英名化したものである。

**位 置**——東京都中央区京橋1丁目1番地　ブリヂストンビル2階  
国電・東京駅八重州口下車　都電・通三丁目下車　地下鉄・京橋（日本橋寄口）

**面 積**——ブリヂストンビル2階全部400坪

**部 屋 割**——第1陳列室、第2陳列室、第3陳列室、講堂、会議室、事務室、倉庫

**照 明**——蛍光灯と白熱燈の併用

**換 気**——エアーコンディションによる換気及び冷暖房、湿度調整

## 機 構 並 に 運 営

美術館は権威ある運営委員会の運営に委ねられている。構成次の通り（イロハ順）

**顧 問**　細川 護 立、和田 英 作、浅野 長 武

**参 与**　今 泉 篤 男、人間野武雄、大原総一郎、河北 倫 明、上野 直 昭、  
久保貞次郎、矢代 幸 雄、松本 栄 一、福島繁太郎、秋山 光 夫

**運営委員会**　委員長 団 伊 能

委 員 石橋幹一郎、猪熊弦一郎、伊原宇三郎、富永 惣一、嘉門 安雄、  
谷 信 一

主 事 岩 佐 新                      嘱 託 徳大寺公英

## 開館時間と入場料

開館時間 午前 10 時——午後 5 時 30 分

休 館 毎月曜日、年末年始 12 月 28 日——1 月 4 日

但し 7 月 1 日——8 月 31 日の間は冷房の関係上、毎日曜日休館

入 場 料 (一人) 一 般 ￥50. 学 生 ￥30. 12 歳未満 ￥20.

(団体) 一 般 ￥40. 学 生 ￥20. 12 歳未満 ￥10.

## 昭和 30 年度入場者一覧

	一 般	学 生	小 人	団 体	合 計	フリーパス	総 計	有 料 者 一 日 平 均
1 月	3535	2025	136	291	5987	222	6209	260
2 月	4777	3012	135	228	8152	339	8491	340
3 月	7945	6221	235	501	14902	629	15531	552
4 月	13655	10636	326	1725	26342	1318	27660	1013
5 月	4485	3149	134	261	8029	356	8385	309
6 月	4207	2466	82	378	7133	443	7576	274
7 月	3090	2096	106	341	5633	274	5907	216
8 月	5305	3241	269	508	9323	287	9610	345
9 月	5143	4154	110	488	9895	419	10314	396
10 月	4357	3583	116	227	8283	428	8711	318
11 月	8016	5631	250	548	14445	517	14962	555
12 月	3258	2208	124	153	5743	239	5982	261
合 計	67773	48422	2023	5649	123867	5471	129338	407

有料者一日平均数は開館日実数を以て算出したものである。

## ブリヂストン美術館作品目録

### 外国作品

1	ルーベンス	男の肖像	(64.5×49cm)	
2	ゴイエン	オランダ風景	(13.5×18)	
3	〃	オランダの運河	(29.5×45.5)	
4	レムブラント	聖ペテロと兵士達	(21.5×16.5)	
5	ファン・デル・ネール	オランダの冬景色	(63×87)	
6	コイブ	ユトレヒト附近の城の濠	(43.5×55.5)	
7	グアルディ	サン・ジョルジオ・マジョーレ寺	(26.5×46)	
8	〃	大運河の税関	(33×47)	
9	〃	リアルト橋	(62.5×98.5)	
10	ゲインズボロー	婦人像	(75.5×64.5)	
11	ドラクロア	馬習作	(19×25)	
12	コロー	ヴィル・ダブレー	(51×46)	1835～40
13	〃	ツータン農場	(44×64)	1845 頃
14	〃	オルレアン風景	(28×38)	1845～50
15	〃	瓶を持つ伊太利の女	(33×21)	1826
16	ドービニー	漁場	(40×67)	
17	クールベ	雪景	(43.5×61)	
18	〃	海	(55×66)	1867
19	ドーミエ	観劇	(23.5×33.5)	
20	ギーヌ	酒場	(18.5×21.5)	
21	マネー	裸婦(素描)	(41×27.5)	
22	〃	オペラの仮装舞踏会	(47×38.5)	1873
23	〃	メリー・ローラン	(42×37.5)	1882
24	〃	ブラン氏像	(206.5×127)	1880 頃
25	ドガ	踊子(素描)	(28×22)	
26	〃	踊りの稽古場にて	(46×89)	1895～98
27	ビサロ	ブージヴァールのセーヌ河	(51×82)	1870
28	〃	ポントアーズの菜園	(55×46)	1878
29	〃	収穫	(71×127)	1882
30	モネー	洪水	(54×73)	1875 頃
31	〃	ヴェニスの夕陽	(74×93)	1908
32	〃	セーヌ河	(22×26.5)	
33	〃	海(ブルターニュ・ベリール)	(61×74)	1888 頃
34	〃	睡蓮	(81×99)	1903
35	〃	睡蓮の池	(101.5×74.5)	1907
36	シスレー	村の道	(66×93)	1866
37	〃	ブージヴァール	(55×74)	
38	〃	サン・マンメ六月の朝	(53×74)	
39	〃	風景	(55×74)	
40	セザンヌ	裸体(素描)	(31×40)	

41	セ	ザ	ン	ヌ	静 物	(20×18)	1873~77
42		〃			水 浴 (素描)	(11×14)	1880 頃
43		〃			水 浴 群 像	(13×21)	1900
44		〃			サント・ヴィクトアール山	(65.5×81)	1898~1900
45		〃			自 画 像	(60×49)	1890~94
46	ル	ノ	ワ	ー	少 女	(61.5×46)	1887
47		〃			裸 婦 (素描)	(32×17)	
48		〃			カーニュのテラス	(46×55.5)	1900
49		〃			坐 る 浴 女	(55.5×44.5)	1914
50		〃			青 帽 子 の 女	(26×23.5)	1918 頃
51	ゴ	ー	ガ	ン	庭 の 中 の 家	(60×74)	1884
52		〃			女 の 顔	(46.5×38)	1880
53		〃			丘のある風景(ブルターニュ)	(73.5×93)	1888
54		〃			ブルターニュの林	(53×46)	1889
55	ゴ		ッ	ホ	鯨	(37×44.5)	1886 頃
56		〃			花	(46.5×38.5)	1886
57	ル		ド	ン	裸 婦 (素描)	(60×68)	
58	ル	ウ	ソ	ー	牛のいる風景	(47×55)	
59		〃			飛行船のある風景	(46×54.5)	
60	シ	ニ	ヤ	ッ	港	(73.5×54.5)	
61		〃			ラ・ロシエル	(21×27)	
62	ロ		ダ	ン	裸 婦 (素描)	(31×17.5)	
63	ボ	ナ	ー	ル	夜 の 室 内	(44×52)	1899
64		〃			桃	(36.5×38)	1926
65		〃			海 岸	(30×45)	
66		〃			ヴェルノン風景	(63.5×62)	1925 頃
67	マ		チ	ス	画 室 の 裸 婦	(65.5×50)	1898~99
68		〃			コリウール海岸	(25×32)	1905
69		〃			縞ジャケット	(123×64)	1909 頃
70		〃			横たわる裸婦	(33×41)	1920 頃
71		〃			オダリスク	(45.5×37.5)	1922
72		〃			オダリスク	(55.5×46)	1926
73		〃			海 水 着 の 女	(46.5×33)	1935
74		〃			リュリュと犬(素描)	(55×45)	
75	ラ	ブ	ラ	ー	横 た わ る 女	(38.5×55.5)	
76	ド		ラ	ン	聖 母 子	(27×22)	1913 頃
77	デ	ュ	フ	ィ	静 物	(46×59)	
78		〃			ヨットのある港	(54×81)	
79		〃			静 物	(38×46)	
80	ユ	ト	リ	ロ	サンドニ運河	(54×75.5)	1910 頃
81	ベ	ラ	ー	ル	緑 の 坐 像	(101×82)	
82	オー	ガス	タス	・	素 描	(23×41)	1917
83	ビ		カ	ソ	女 の 顔	(46×38)	1923
84		〃			静 物	(15.5×27)	1919
85		〃			卓子掛の上の静物	(51.5×66.5)	1946



86	ブ ラ ッ ク	梨	(27.5×45)	1924
87	ル オ ー	ビ エ ロ	(75.5×51.5)	1925
88	〃	風 景	(20.5×31)	1913
89	ド ン ゲ ン	公 園 の 道	(68×52)	
90	ヴ ラ マ ン ク	風 景	(60×73)	1905〜6
91	〃	風 景	(47×56)	
92	ス ゴ ン ザ ッ ク	風 景	(50×56)	
93	ロ ー ト	海 浜	(50.5×73)	
94	ロ ー ラ ン サ ン	二人の少女	(65.5×54.5)	1923
95	〃	手鏡を持つ女	(46×38.5)	
96	ザ ツ キ ン	三人の女	(62×45)	
97	ボムペイ壁画断片2点			

その他外国作品数点

日 本 作 品

1	中 丸 精 十 郎	滝	(107.5×70.5)	1890
2	百 武 兼 行	臥 裸 婦	(97×187)	
3	浅 井 忠	縫 物	(61×46)	1902
		他 1 点		
5	原 田 直 次 郎	童 女 図	(51×41)	
6	黒 田 清 輝	ブレハの少女	(81×54)	1891
7	〃	秋 の 山 路	(81×61)	1912 頃
8	〃	鉄 砲 百 合	(61.5×81)	1909
9	〃	針 仕 事	(80×65)	1890
10	藤 島 武 二	天平の面影	(198.5×94)	1902
11	〃	自 画 像	(47×32.5)	1904〜5
12	〃	ヴェルサイユ風景	(73×91)	1906〜7
13	〃	噴水のある風景	(16×22)	〃
14	〃	ル チ ェ ル ン	(23×33)	1908
15	〃	ネ ミ 湖	(26.5×35)	〃
16	〃	瑞 西 風 景	(24×33)	〃
17	〃	噴水のある池	(24×33)	1908〜9
18	〃	ヴェキラ・デステの池	(24×33)	〃
19	〃	糸杉 (フラスカティのヴェキラ・)	(40×37)	〃
20	〃	ファルコニエリ		
20	〃	ボムペイ壁画模写	(35×26.5)	〃
21	〃	ボムペイ壁画模写	(26.5×35)	〃
22	〃	ボ ム ペ イ	(26.5×35.5)	〃
23	〃	ボムペイ遺跡	(26.5×35.5)	〃
24	〃	池	(31×26)	〃
25	〃	糸 杉	(33×24)	〃
26	〃	ナ ポ リ 湾	(26×35)	〃
27	〃	イタリーの海	(24×32)	〃
28	〃	池 畔 の 女	(30×31)	〃
29	〃	半 裸 婦 人 像	(31×30)	〃
30	〃	空 (ロ ー マ)	(27×35.5)	〃
31	〃	雲 (ロ ー マ)	(22.5×38.5)	〃

32	藤 島 武 二	ローマの遺跡	(35.5×26.5)	1908~9
33	〃	ローマの寺院	(33.5×27)	〃
34	〃	ローマ郊外	(24×33)	〃
35	〃	黒 扇	(64×41.5)	〃
36	〃	チ ョ チ ャ ラ	(45×38)	〃
37	〃	唐 様 三 部 作	(79×138.5)	1921 頃
38	〃	淡 路 島 遠 望	(53×73)	1929
39	〃	浪 (大 洗)	(34×46)	1931
40	〃	五剣山の日の出	(53×73.5)	1932
41	〃	五剣山の日の出	(37.5×45)	〃
42	〃	屋島よりの遠望	(54×73)	〃
43	〃	東 海 旭 光	(65×91)	〃
44	〃	奈 良 風 景	(54×46)	1934
45	〃	旭 光 (新高山)	(39×46.5)	1935
46	〃	琉 球 の 女	(36×29)	1936
47	〃	琉 球 の 女	(35.5×28)	〃
48	〃	蒙 古 の 日 の 出	(42×55)	1937
49	〃	黄 浦 江	(28×36)	1938
50	〃	港の朝陽(絶筆)	(19×24)	1943
51	〃	海	(38×45.5)	
52	〃	日 の 出	(19×24)	
53	〃	騎 兵	(55.5×27)	
54	〃	素 描 5 点		
		他 10 点		
69	岡 田 三 郎 助	雪 景	(21×26)	1913
70	〃	髪 梳 く 女	(60×46)	1915
71	〃	水 浴 の 前	(200×76)	1916
		他 2 点		
74	満 谷 国 四 郎	ブルターニュ風景	(46×55.5)	
75		坐 婦	(65×54.5)	1913
		他 5 点		
81	青 木 繁	閼 威 弥 尼	(15×10.2)	1903
82	〃	木 立	(33×24)	1904
83	〃	農 家	(29×31)	〃
84	〃	春	(16.3×32.3)	〃
85	〃	丘に立つ三人	(16×14)	〃
86	〃	天 平 時 代	(46×76.5)	〃
87	〃	海 の 幸	(70×181.5)	〃
88	〃	海	(10.3×15)	〃
89	〃	水 浴	(14×25)	1904~5
90	〃	海 景	(35×71.5)	〃
91	〃	雪 景	(23×32.5)	1905
92	〃	光 明 皇 后	(38×72.5)	〃
93	〃	わだつみのいろこの宮	(181.5×70)	1907
94	〃	月 下 滞 船 図	(41.5×57)	1908

95	青 木 繁	秋の夜(鉛筆)	(14.5×16)	1902
96	〃	風 景(扇面)	(15×40.5)	1904
97	〃	女の顔(羽子板)		〃
98	小 出 楠 重	裸 婦	(70×46.5)	1925
99	〃	裸 婦(素描)	(35×50)	1926
100	安 井 曾 太 郎	水 浴 裸 婦	(128×193)	1914
101	〃	ば ら	(63×52)	1932
102	〃	桜	(60.5×55)	1946
		他 1 点		
104	岸 田 劉 生	麗 子 坐 像	(34×47)	1920
105	国 吉 康 雄	寝 た る 女	(41×76.5)	1929
106	古 賀 春 江	素 朴 な 月 夜	(116.8×91)	1929
107		単 純 な 哀 話	(116.8×91)	1930
		他 7 点		
115	佐 伯 祐 三	広告とテラス	(53.5×65)	1927
116	〃	ガ ラ ー ジ ュ	(60×73)	1927~8
117	〃	広 告 貼 り	(73×60)	1928
118	和 田 英 作	読 書	(73×53.5)	
		他 2 点		
121	坂 本 繁 二 郎	自 画 像	(45.5×37.5)	1929
122	〃	放 牧 三 馬	(79.5×99)	1932
123	〃	金 髪 の 女	(41×33)	1932
		他 4 点		
128	藤 田 嗣 治	インキ壺の静物	(22×27)	1926
129	〃	猫のいる静物	(82×101)	1939~40
130	〃	ドルドーギュの家	(45×53)	1940
131	〃	公 園 の 雪	(32×41)	〃
		他 8 点		
140	梅 原 竜 三 郎	富 士	(40×49)	
141	〃	椿	(95×39)	
		他 2 点		

その他日本現代画家作品数十点

## 版 画

ロートレック ムーラン・ルージュのポスター他百数十点

彫 刻				
1	バ リ ー	牛 (ブロンズ)	(20.5cm)	
2	ロ ダ ン	考える人(ブロンズ)	(38.5)	1880
3	〃	青銅時代(ブロンズ)	(63.5)	1877
4	〃	女の顔(ブロンズ)	(24.5)	
5	〃	ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ(ブロンズ) (51)		1892
6	〃	立てるフォーンヌ	(71)	1884
7	ブ ー ル デ ル	サッフォ(ブロンズ)	(28)	1907~8
8	マ イ ヨ ー ル	女の顔(テラコッタ)	(30)	
9	デ ス ピ オ	アントアネットの顔(ブロンズ)	(31)	1918
10	〃	女の顔(ブロンズ)	(27)	

11	ポ    ン    ポ    ン	鷓鴣(ブロンズ)	(27.4)
12	〃	禿鷹(ブロンズ)	(20.5)
13	〃	家鴨(ブロンズ)	(18.5)
14	ザ    ツ    キ    ン	母    子 (石)	(75)
15	〃	ポ   モ   ナ (木)	(131)
16	〃	三 美 神(真鍮)	(77)

ギリシャ、ローマ彫刻数点

エジプト浮彫、彫刻等数点

バルミューラ彫刻数点

その他日本現代彫刻家作品数点

## そ の 他

インカ陶器 31 点

ギリシャ陶器 15 点

ペルシャ陶器 14 点

スペイン陶器 20 点



## 追加新展示作品

1月5日	平賀 亀 祐	古い巴里の街角	7月28日	セザンヌ	二つの梨
1月29日	藤 島 武 二	噴水のある風景	8月27日	古賀 春江	素朴な月夜
3月3日	デュフィ	静 物	"	"	単純な哀話
3月16日	藤 川 勇 造	臥裸婦(ブロンズ)	10月25日	安井曾太郎	水浴裸婦
3月20日	デスピオ	女の顔( " )	12月6日	ルウソー	マルス河畔
4月7日	セザンヌ	自 画 像	"	モンチセリー	犬のおめみえ
6月2日	コロー	瓶を持つ伊太利の女	"	ベラール	人 物
7月1日	パルミュラ	出土彫刻2点	"	佐伯 祐 三	広 告 貼 り
"	エトルスク	黒絵人物祭器	"	黒 田 清 輝	針 仕 事
"	エジプトアラバスター	彫刻 ホールス神	"	坂本 繁二郎	自 画 像
"	ペルシヤ	緑釉金彩鉢	12月7日	ギリシヤ	彫刻牛頭
"	ポムペイ	壁画断片2点			

## 藤島武二作品特別陳列 2月1日～3月6日

本館在庫の藤島武二作品の大部分を、第2、第3陳列室に出陳、特別展示を行つた。

## 藤 田 嗣 治 展 3月8日～4月3日

本館所蔵の油、素描、エッチング、その他巴里風物を描いた版画等一堂に集めて特別展示を行つた。

1 ブラジルにて	1932	21 中 央 市 場
2 私 の 夢	1947	22 バレ・ロワイヤール
3 キ リ ス ト	1932	23 マ キ シ ム
4 ドルドーギュの家	1940	24 パ リ の 下 町
5 猫のいる静物	1939～40	25 宝 石 の 女
6 インキ壺の静物	1926	26 ボーヴォーの広場
7 公 園 の 雪	1940	27 エ リ ゼ ー 宮
8 巴 里 郊 外	1937	28 聖フィリップ
9 室 内		29 ロンシャン競馬場
10 猫	1934	30 隠 れ 座 敷
11 婦 人 像	1927	31 中 央 市 場
12 "	1932	32 香 夢
13 女 と 猫		33 大きな美容院
14 人形を抱く子供	1948	34 シャンゼリゼー
15 女 の 顔		35 ヴァンドーム
16 臥 婦	1949	36 ミジネット
17 猫		37 マ リ ニ
18 自 画 像	1927	38 シャルバンティエの競売
19 二人の裸婦	1927	39 オペラの夢
20 自 画 像	1950	40 レ・テルスの広場

# 旧福島コレクション展 4月5日～5月1日

福島繁太郎氏旧蔵の諸作品を諸方所蔵家より借り受けて大原美術館と共催のもとに、第2陳列室、第3陳列室に於て特別陳列を行つた。尚、終了後はそのまま大原美術館に於いても展覧会が行われた。

1	コ	ロ	ー	伊 太 利 の 女	1826	33×21
2	セ	ザ	ン	水 浴	1887	11×20
3	ア	ン	リールウソー	マルヌ川のほとり	1907	60×73
4	マ	チ	ス	静 物	1903	7×9
5		〃		い こ い	1921	59.5×72.5
6		〃		オダリスク (1)	1922	61.5×50.5
7		〃		〃 (2)	〃	45.5×37.5
8		〃		黄 衣	〃	65.5×51
9		〃		婦 人 像	〃	24.5×18
10		〃		赤 い 静 物	1926～7	54×65
11	ド	ラ	ン	ビリヤード	1913	140×88
12		〃		自 画 像	〃	36.5×24.5
13		〃		イタリエンヌ	1922	92×75
14		〃		浴 女	〃	35×26.5
15		〃		静 物	1923	59×67
16		〃		梨 の 静 物	1924	31×34
17		〃		少 女	〃	48×45.5
18		〃		ブ ロ ン ド	〃	46×38
19		〃		フォンテンブローの森	1925	72×90
20		〃		裸 女 (緑)	〃	92×73
21		〃		花 束	〃	45×57
22		〃		裸 女	〃	36×21
23		〃		裸 婦	〃	92×73
24		〃		顔	〃	53×39
25		〃		エスタック附近	1913	65×81
26		〃		顔	1927	33×23.5
27	ル	オ	ー	芝居の呼込み	1906	28×45
28		〃		碟	1908	40×28
29		〃		パール・ウプウ	1916	32×20
30		〃		郊外のキリスト	1920	91.5×74
31		〃		道 化	1920～25	75.5×51.5
32		〃		赤 鼻	1925～29	75×52
33		〃		大 き な 人 形	〃	69×50
34		〃		道 化 の 横 顔	〃	58×40
35		〃		青 い 鼻	〃	69×50
36		〃		女 の 道 化	1929	73×54
37		〃		キリストの顔	〃	47×10
38		〃		裁 判	1935	75×105
39		〃		池 畔 (A)		24×17
40		〃		池 畔 (B)		24×17

5月2日、世界オリンピック協会長  
ブランデー氏来館

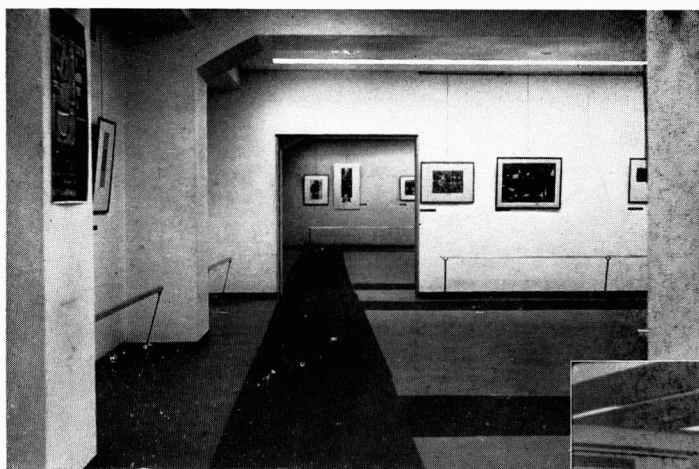
9月18日、希望者作品批評会  
講師、伊原宇三郎、宮本三郎  
脇田和の三氏



8月10日—14日  
ブリヂストン美術館夜間講座  
人体実技講習

講師、猪熊弦一郎、伊原宇三郎、野口弥太郎  
脇田和、宮田重雄、宮本三郎諸氏

←  
同講習会作品批評



←  
現代アメリカ版画展  
(5月3日—15日)



→  
現代イタリア美術展  
(9月15日—10月9日)  
→



平賀龜祐滞仏作品展  
(4月20日—28日)

会場にて猿之助氏と  
語る平賀氏

荒井龍男帰朝展  
(7月18日—23日)

←会場に於ける荒井氏

→山本豊市作品展  
(6月28日—7月8日)



青山義雄滞欧作品展  
← 10月11日—21日  
向って右、青山氏

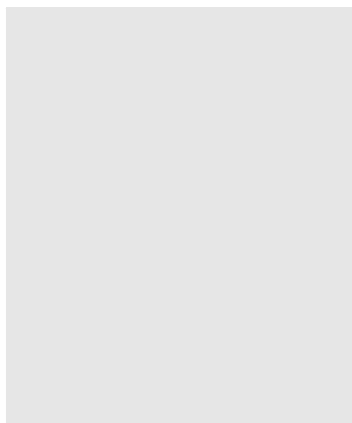


〔旧福島コレクション展〕



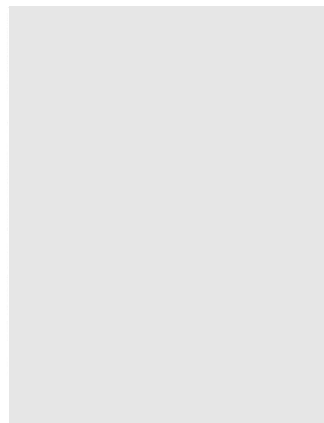
ピエロ

ルオー



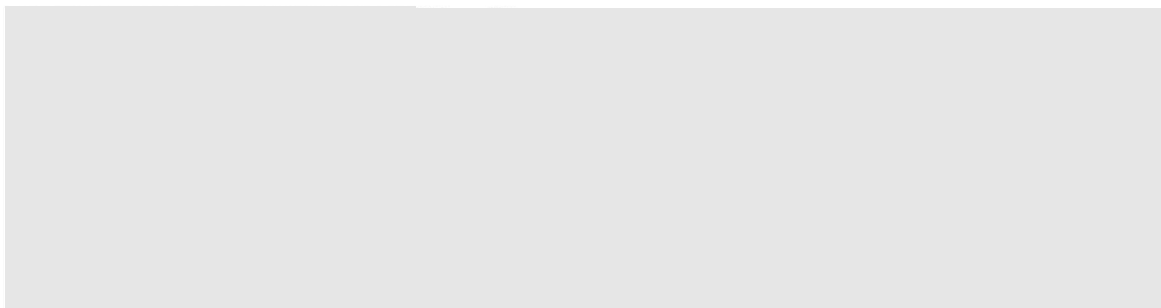
郊外のキリスト

ルオー



大きな人形

ルオー

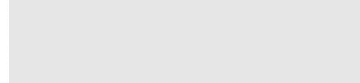
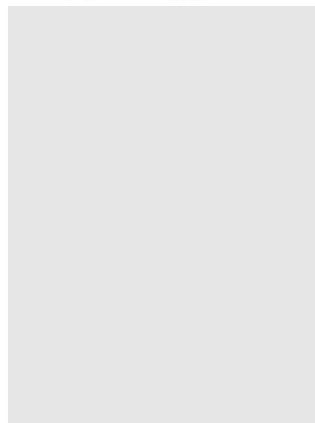
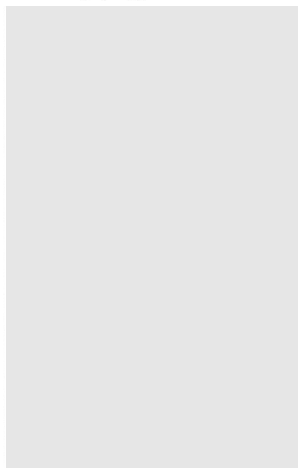


風景

ピカソ

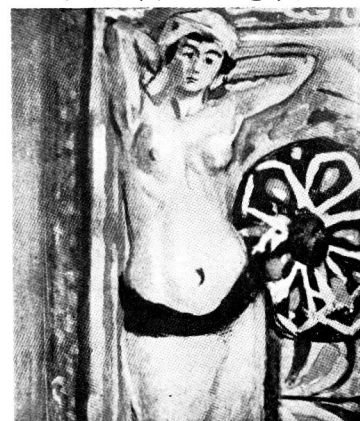
鳥籠のある静物

ピカソ



アルルカン

ピカソ

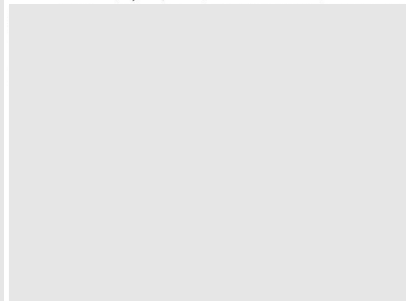


裸婦

ブラック

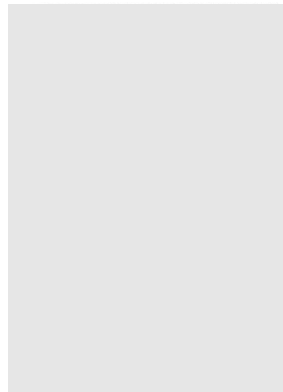
オダリスク

マチス



水浴

セザンヌ



顔

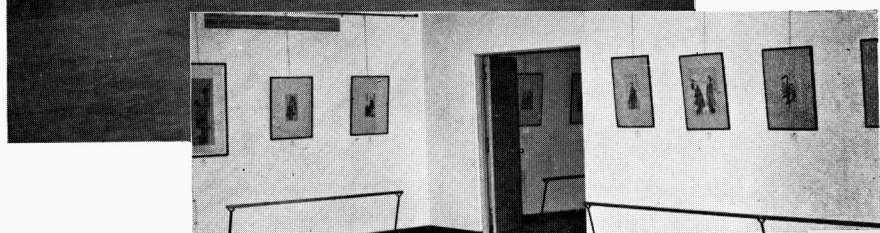
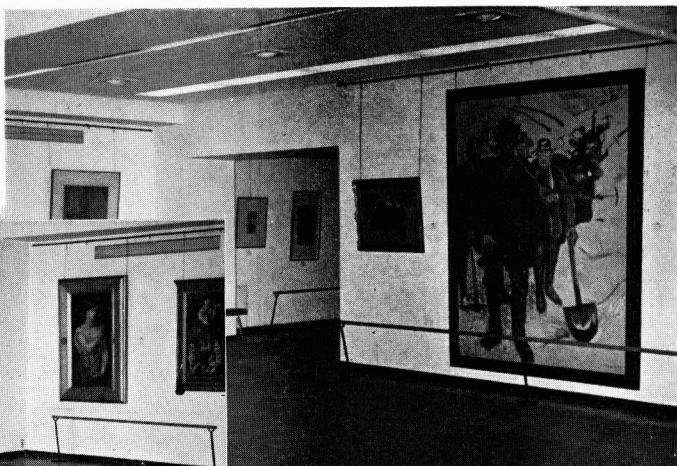
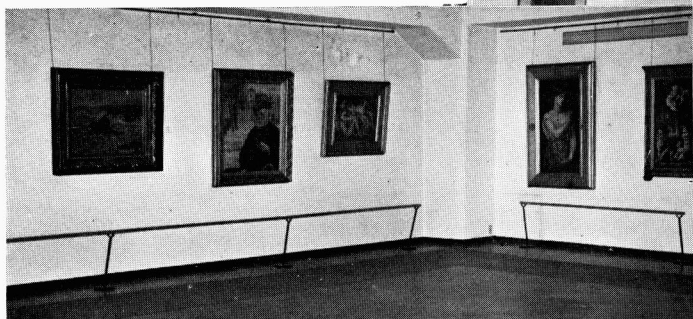
ドラン

マルヌ河畔

ルウソー

第2回旧松方コレクション展

↓ 11月8日—12月4日 →



同展浮世絵の陳列



夢みる人

ヘンリー・ミラー

粧ひ（乾漆） 山本豊市

女の顔（乾漆） 山本豊市

塩 鮭 平賀亀祐

アルサスの噴水 平賀亀祐

我が家 平賀亀祐

〔第2回旧松方コレクション展の内より〕

ジュ  
ピ  
ター  
の  
少  
年  
時  
代  
ワ  
ッ  
ツ

落 日      ドビニー

モレーの村

シスレー

ルアンの港

ピサロ

慈 愛  
バーン・ジョンス

けまり      師宣

バリー像

ミレー

雪かき人夫

ムンク

風流四季六歌仙    春信

市川高麗蔵

写楽

市川高麗蔵

春英

婦女人相十点  
浮気の相

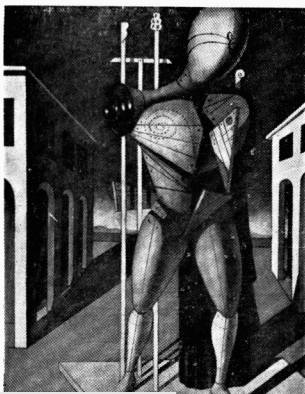
歌麿

隠者の習作

スパツアパン

吟遊詩人

デ・キリコ



〔現代イタリア美術展〕

游泳場

カンピーリ

水運びの女

グトロー

黒い家

ジェンティリーニ

イタリア

シローニ

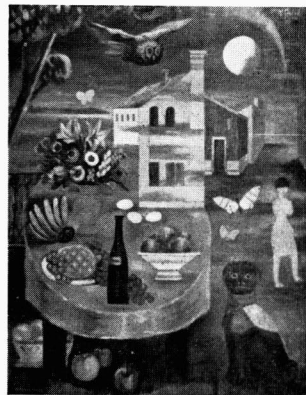
新展  
うち作品の



針仕事 黒田清輝



広告貼り 佐伯祐三



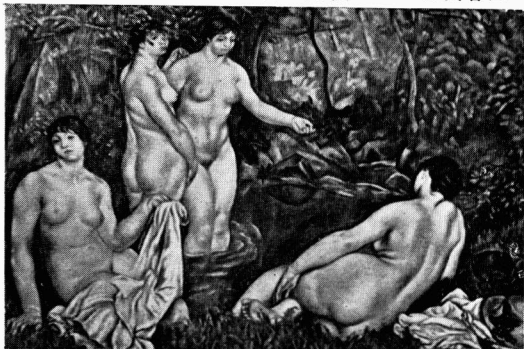
素朴な月夜 古賀春江

古い巴里の街角

平賀亀祐

水浴

安井曾太郎





新 展 示 作 品

の 内 よ り



瓶を持つイタリアの女  
コロ



←ポンペイ壁画断片↑



自  
画  
像

セ  
ザ  
ン  
ヌ



少女像

デスビオ

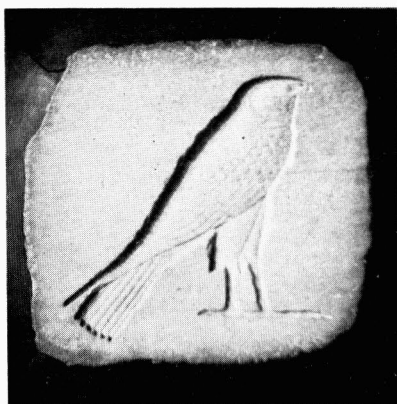


静 物

デュフィ

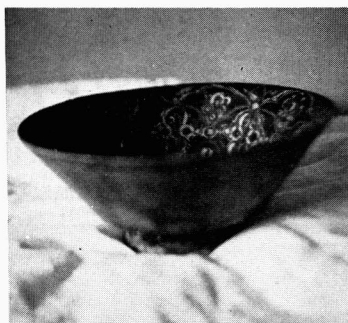
犬のおめみえ

モンチセリー



エジプト十八王朝彫刻ホルス神

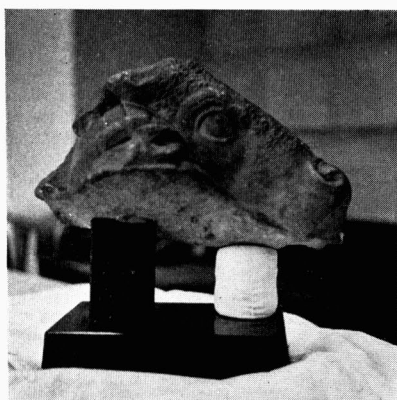
新 展 示 作 品



ペルシヤ緑釉金彩鉢



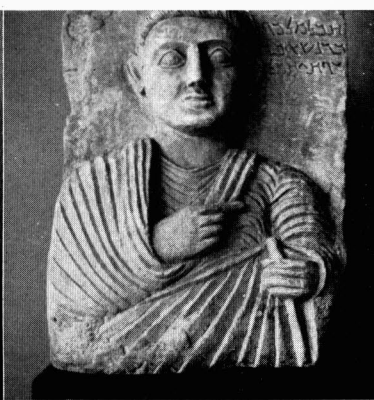
エトルスク黒絵人物付祭器



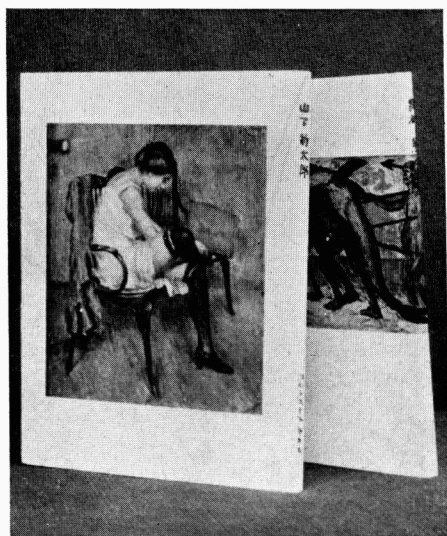
ギリシヤ時代 牛 頭



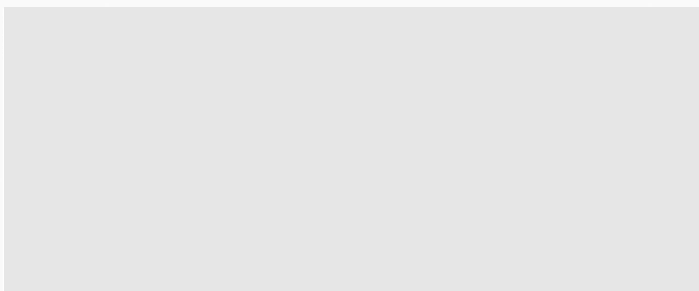
パルミュラ石灰岩彫刻



パルミュラ石灰岩彫刻



美術映画スチールの内より



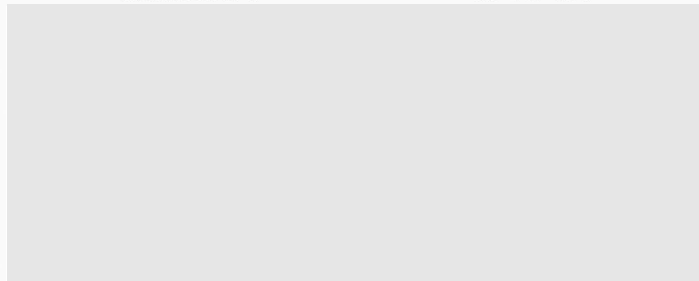
梅原龍三郎氏

前田青邨氏

美術家シリーズ

第1輯青木繁の改幀版、

第3輯山下新太郎を発刊



坂本繁二郎氏

中村岳陵氏

41	ピ	カ	ソ	髪をすく女	1901	16.5×12
42		〃		風景	1919	49×65
43		〃		顔	1923	46×38
44		〃		裸婦立像	〃	33×24.5
45		〃		馬	〃	21×26
46		〃		アルルカン	〃	101×81
47		〃		鳥籠のある静物	1925	81.5×105
48	ブ	ラ	ッ	静物	1924	27.5×45
49		〃		裸婦	1925	92×73
50	ス	ゴ	ン	石膏のある静物	1926	81×64
51	ス	ー	チ	狂女	1920	96×60.5
52		〃		鴨	1925	93×57
53	ユ	ト	リ	巴里郊外	1908	49×73
54		〃		サントニ風景	1909	54×75.5
55	ベ	ラ	ー	人物	1928	91×60
56		〃		人物	〃	101×82
57		〃		笛をもつ男	〃	55×33
58	エ	ル	ン	貝	1927	22×27
59	チュ	リ	チェ	静物	1928	91.5×73
60		〃		静物	1929	80×65
61	ド・ラ・フ	レ	ネー	静物	1921	18×23
62		〃		素描		26×20
63		〃		素描		24×18.5

## 平賀亀祐滞仏作品展 4月20日～4月28日

平賀氏50年振りの帰朝に際し、朝日新聞社と当館との共同主催で本館講堂に於いて個展を開いた。

1	塩	鮭	1938	19	カテドラルとユール河	1954
2	静	物	1951	20	嵐の前のイヴェット	〃
3	キーンツハイムの教会堂		1952	21	ユール河畔	〃
4	聖ジュスヴィエヴ寺院とバンテオン		〃	22	サン・ジュリアン・ル・ボーヴル街の野菜店	〃
5	チーズを売る店		1953	23	モンパルナッスの花屋	〃
6	リクヴィルの泉水		〃	24	サン・ポール街	〃
7	リクヴィルの街路		〃	25	ムフタール街	〃
8	リクヴィルの夕陽		〃	26	ヴォージラル通りの古い店	〃
9	リクヴィルのジュイフ街		〃	27	ガリバルディ通りの荒物屋	〃
10	コリユール		〃	28	ノートルダム・ド・バリ	〃
11	セレの秋		〃	29	ボース平野	〃
12	イヴェットの古い家々		〃	30	曇り日のバリ	〃
13	古いバリの街角		1954	31	サン・ジャック街の古い中庭	〃
14	ユール河畔の古い家		〃	32	花	〃
15	ブール街の店		〃	33	ブール街とカテドラル	〃
16	ブール街		〃	34	サン・タンドレ橋	〃
17	ベルシェールの刈入れ		〃	35	サン・ジャック街のウインドー	〃
18	ドゥアルヌネの港		〃	36	刈り入れの後	〃

37 ユール河の橋	1954	41 シャルトルの街景	1954
38 ノジャン・ル・ロワ教会	〃	42 エペルノン展望	〃
39 サン・ジェルマン村	〃	43 エペルノンの街	〃
40 ボースの風景	〃	44 フレネ教会	〃

## 現代アメリカ版画展 5月3日～5月15日

アメリカの版画の伝統的都市フィラデルフィアの中堅新鋭の版画家によるプリントクラブが選抜した作品が在日シャーマン氏によってもたらされ、当館に於て特別展示を行った。

1 グレン・アルプス	種は育つ(リトグラフ)	25	〃	火曜日の娘( 〃 )
2	夜 景(セリグラフ)	26	ミシュ・コーン	子供をつれた三人の訪問者(木 版)
3 ウィル・バアネット	スウィング(リトグラフ)	27	〃	歌舞伎武士( 〃 )
4	子 供( 〃 )	28	アルミン・ランデック	円形劇場(刀刻版)
5	夜明けの気配( 〃 )	29	〃	巴里の地下鉄( 〃 )
6 レオナード・バスキン	人と犬(木 版)	30	エドワード・ランドン	最初の帝王(セリグラフ)
7	解剖家( 〃 )	31	〃	ゴシック( 〃 )
8 ジョン・ベルンハルト	都 市( 〃 )	32	サミエル・マイティン	風景の中の人物(エッチング)
9	人生の踊り( 〃 )	33	〃	静 物(木 版)
10 リー・シեսネー	否 定(インタリオ)	34	レオナ・ピアース	球で遊ぶ人達( 〃 )
11	版 刻(刀 刻 版)	35	〃	跳 躍( 〃 )
12 エリノア・カーン	都 市 に て(リトグラフ)	36	〃	遠乗りの帰り( 〃 )
13	冬 ( 〃 )	37	カール・シュラッグ	反 射 と 風(エッチング)
14 エドワード・コルカー	魔女の行列(エッチング)	38	〃	茂 る 林(刀 刻 版)
15	庭 ( 〃 )	39	ヘレン・シーガル	猫 と 魚(木 版)
16 アントニオ・フラスコニ	砕 氷 器(木 版)	40	〃	貧しい少年( 〃 )
17	犬 と 羊( 〃 )	41	〃	夕 暮( 〃 )
18	スナップショット( 〃 )	42	ベントン・スブルアンス	断 片(リトグラフ)
19 ミルトン・ゴールドシュタイン	静かな者(エッチング)	43	〃	人身牛頭(ミノトオル)の死( 〃 )
20	彫 刻( 〃 )	44	カロール・サマース	小さい風景(木 版)
21 マックス・カーン	魚 と 魚 売(リトグラフ)	45	〃	暗 い 雲( 〃 )
22	木 馬( 〃 )	46	〃	支那の風景( 〃 )
23 ジェローム・カブラン	海 女(木 版)	47	ジョン・フォン・ヴィヒト	春 (リトグラフ)
24	メランドと山羊(リトグラフ)	48	〃	柱 ( 〃 )

## ヘンリー・ミラーの水彩画展 6月7日～6月26日

ヘンリー・ミラーは過般日本で発禁処分を受けた「セクスス」の原著者で、「北回帰線」「暗い春」などの問題作を発表したアメリカの文学者として広く知られているが、彼の水彩画もまた早くからフランスはじめ世界的に認められ、創作の合間にその文学作品に劣らぬ画作を続けている。彼は 1891 年ニューヨーク生れ、ブルックリンで育ったが 1930 年にヨーロッパに赴き、巴里でダダイスム、シュールレアリスムの群に投じた。その後巴里画壇と結び、ピカソ、ブラック、マティス等の巨匠とも親しく交り、エコール・ド・パリをニューヨークに飛火させたユニークな画家である。幻想的な近代文人画と云うべき作品が多く、日本に大変興味を持っているそうで、直接送って来た作品である。

1 夢 の 港	3 北 印 度
2 孤 独	4 激 震 の 後

5 東方を望んで  
6 行 列  
7 北アフリカの街  
8 何 処 か で  
9 ベルチスタンへの途  
10 東 と 西  
11 ジャングル幻想曲  
12 僧 侶  
13 幻 想  
14 私 の 娘  
15 夢 み る 人  
16 私 の 息 子  
17 タルン・エ・ギャロンス  
18 岩 頭  
19 中国の何処か  
20 引 潮  
21 何処にも行かずに  
22 子供らしい幻想

23 子供らしい夢  
24 アルカイックな夢  
25 ユ カ タ ン  
26 キャシス シュルメール  
27 考 古 学 的 な  
28 チベットの近傍  
29 夜 の 祭  
30 自 画 像  
31 春 の 気 配  
32 春  
33 建 築 的 幻 想  
34 素 直 な 心  
35 道 化 師  
36 妖 術 師  
37 ブルックリン児  
38 水 底  
39 詩 人 の 冬  
40 ヒンズー教徒の結婚

## 山本豊市作品展 6月28日～7月8日

乾漆彫刻は日本にも昔はあったが、今はあまり無い。芸大教授山本豊市氏はこの乾漆による彫刻を主とした二十数点の作品をもって当館講堂に於て個展を開いた。(当館主催)

1 ローズの首	1927	13 〃 C	1954
2 エチュード A	1928	14 第二の青春	1955
3 〃 B	1929	15 浴	(新作)
4 女の顔 A	1936	16 ト ル ソ	〃
5 う ず め	1938	17 第二の青春	〃
6 静	1945	18 坐 女	〃
7 〃 房 子	1946	19 女 の 顔 A	〃
8 坐 女	1947	20 〃 B	〃
9 イ ヴ	1952	21 粧 い	〃
10 エチュード C	1953	22 エ チ ュ ー ド	〃
11 〃 D	〃	23 憩	〃
12 女 の 顔 B	〃	24 デ ッ サ ン	9 点

## 荒井龍男帰朝展 7月18日～7月23日

荒井龍男氏はモダンアート協会所属の作家、アメリカ、フランス、南米等旅行の三年間(南米サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ等一番永く、一年半)の作品をもって、当館講堂に於いて個展開催(当館主催)

油彩、グワッシュ 48 点

## 墨人会書道展 7月26日～7月29日

講堂の会場貸与、31 点出陳、主催墨人会

ユトリロ ヴラマンク 巴里風景版画展 8月1日~8月27日

本館所蔵の下記版画を特別陳列した。

ユトリロ

- 1 ムーラン・ド・ラ・ギャレット
- 2 バスティューの洗濯屋
- 3 村の一隅
- 4 古い学校
- 5 モンマルトルの裏路
- 6 モンマルトル
- 7 サン・ヴァンサン of 古い街
- 8 サン・ピエール教会堂
- 9 サン・ベルナル館
- 10 サン・リュスティグ街

ヴラマンク

- 1 アトリエの一隅
- 2 自画像
- 3 モンパルナス駅附近
- 4 郊外
- 5 グラン・コントアール
- 6 プロレタリア
- 7 河岸
- 8 下町
- 9 雪のリュクサンブール公園
- 10 店
- 11 グルネルにて
- 12 ドラゴン像
- 13 ルイユ・ラ・ガドリエールの村

ピカソ  
マルチス  
ボナール

作品特別展示 8月11日~9月13日

ピカソ

- 1 馬
- 2 アルルカン
- 3 風景
- 4 女の顔
- 5 静物
- 6 卓子掛の上の静物

マルチス

- 1 鏡の前
- 2 林間の女
- 3 静物
- 4 静物
- 5 女の顔 (デッサン)
- 6 画室にて
- 7 コリウール海岸
- 8 帽子の女
- 9 横たわる裸婦

10 オダリスク

- 11 海木着の女
- 12 リュリュと犬
- ルオー

- 1 芝居の呼込
- 2 大きな人形
- 3 赤鼻のピエロ
- 4 郊外のキリスト
- 5 裁判
- 6 女のピエロ
- 7 ピエロ

ボナール

- 1 南仏の海
- 2 夜の室内
- 3 桃
- 4 海岸
- 5 風景

現代イタリア美術展 9月15日~10月9日

朝日新聞社主催、日伊協会、イタリア大使館後援

日伊文化親善を目指してイタリアから送られた現代イタリア作家による作品展を当館第2、3陳列室に於て催した。この中でもキリコの作品が日本に来たのは初めてである。

# マリオ・シローニ

1	山の風景	(油 彩)	59.5×65.5
2	山の風景	( 〃 )	20×28
3	考える人	( 〃 )	24×37
4	イタリア	(テンペラ)	21×38
5	海の見晴らし	( 〃 )	39×33
6	イタリア風景	( 〃 )	30.5×32
7	兵士の帰還	( 〃 )	66×49
8	人 体	( 〃 )	37×25
9	裸 体	(インク)	43×62
10	人 体	(テンペラ)	30.5×42
11	男 の 顔	( 〃 )	41×27.5

# ジョルジオ・デ・キリコ

1	イタリアの広場	(油 彩)	50×40
2	イタリアの広場	( 〃 )	〃
3	オresteとピラード	( 〃 )	90×65
4	吟遊詩人	( 〃 )	62×49.5
5	剣闘士	( 〃 )	59×50

# ルイジ・スパツァン

1	女の像のある室内	(テンペラ)	51×75.5
2	海 辺 の 町	( 〃 )	57×75.5
3	聖人の顔 習作	( 〃 )	51×38
4	隠者の習作	( 〃 )	〃
5	聖人の顔 習作	( 〃 )	50×38
6	闘 牛 者	( 〃 )	72×49
7	隠者の習作	( 〃 )	〃

# エンリコ・フランボリーニ

1	いきいきとした春	(油 彩)	80×100
2	具体的な解剖 No.3	( 〃 )	162×112
3	具体的な解剖 No.5	( 〃 )	〃
4	線 の 関 係	( 〃 )	〃
5	コンポジション	( 〃 )	100×80

# マシモ・カンピーリ

1	真珠の首飾りをした女	(油 彩)	46×38
2	いろいろの人像	( 〃 )	45×55
3	游 泳 場	( 〃 )	193×128.5
4	女 の 顔 (モノタイプ)		33×23
5	二 人	( 〃 )	43.5×37.5
6	遊 び	( 〃 )	40.3×33

# ファウスト・ピランデロ

1	静 物	(油 彩)	50×70.5
2	鎌をもった女	( 〃 )	71×52
3	婦 人 像	( 〃 )	70.5×50
4	機 械	( 〃 )	70.5×50.5

5	横 臥	(油 彩)	50×71
6	仰向けの裸体	( 〃 )	100×70
7	水浴のリズム	( 〃 )	65×62.5
8	風変りな裸体	( 〃 )	71×102

# フランチェスコ・ペロツティ

1	シャルトル風景	(油 彩)	45×59.5
2	ガルダ湖風景	( 〃 )	47.5×65
3	ブルターニュ風景	( 〃 )	59.5×79.5

# アルベルト・チヴェリ

1	ノートル・ダム	(油 彩)	40×45
2	若 鳥	( 〃 )	34×24
3	セ ー ス の 霧	( 〃 )	33×40.5
4	風 景	( 〃 )	37×50
5	す み れ	( 〃 )	57×37

# フランコ・ジェンティリーニ

1	ラ イ オ ン	(油 彩)	54×73
2	バレルモの聖堂	( 〃 )	130×97
3	町はずれの家	( 〃 )	73×54
4	アスパラガスのある静物	( 〃 )	〃
5	猫	( 〃 )	81×54
6	宴 会	( 〃 )	73×54
7	黒 い 家	( 〃 )	100×73
8	台所用具のある静物	( 〃 )	〃

# レナート・グトーゾ

1	トッレ・デル・グレコの風景	(油 彩)	75×113
2	マテラ風景	( 〃 )	106×120
3	水運びの女	( 〃 )	115×77
4	イタリア海岸	( 〃 )	103×152
5	バレルモのガリバルディ	( 〃 )	39×63
6	アナカブリの女たち(インク)		48×63
7	アナカブリの女たち( 〃 )		50×70
8	アナカブリのひと ( 〃 )		48.5×62.5
9	水運びの女たち ( 〃 )		42×24.5
10	カ プ リ (木 炭)		47×63.5
11	ア ナ カ ブ リ (鉛 筆)		48.5×66
12	アナカブリのオリーブ	(鉛 筆)	48.5×66
13	アナカブリの女たち(インク)		50.5×41
14	習 作 (裸体) ( 〃 )		36×55.5
15	アナカブリのオリーブ	(クレイヨン)	70×50
16	習 作 (インク)		34×45
17	水運びの女たち ( 〃 )		50×30.5

# 青山義雄氏滞欧作品展 10月11日～10月21日

滞欧作品約 30 点を当館主催にて展観した。

## 第2回旧松方コレクション展 11月8日～12月4日

昭和 28 年、旧松方氏蒐集の作品を集めて大展覧会を開催したが、これはその第2回展で、前回に出なかつた作品を主として陳列した。

### 西 洋 画

- |    |               |                 |
|----|---------------|-----------------|
| 1  | ブラングィン        | 松方幸次郎像          |
| 2  | ルーベンス         | 男の肖像            |
| 3  | ヤン・ファン・ゴイエン   | 風景              |
| 4  | 〃             | 風景              |
| 5  | アルト・ファン・デルネール | オランダの冬          |
| 6  | レンブラント        | 聖ペテロと兵士達        |
| 7  | ヤンセン          | ケント卿夫人像         |
| 8  | クイップ          | 風景              |
| 9  | グアルディ         | サン・ジョルジオ・マジョーレ寺 |
| 10 | 〃             | 大運河の税関          |
| 11 | 〃             | リアルト橋           |
| 12 | ゲンスボロー        | 婦人像             |
| 13 | コロー           | ツータン農場          |
| 14 | ドーミエ          | 観劇              |
| 15 | テオドル・ルッソオ     | コロー像            |
| 16 | ミレー           | バリイ像            |
| 17 | 〃             | バルビゾンのミレーの家     |
| 18 | ドビニー          | 風景              |
| 19 | 〃             | 漁場              |
| 20 | 〃             | 落日              |
| 21 | ワッツ           | ジュピターの少年時代      |
| 22 | クールベ          | 海               |
| 23 | 〃             | 日没              |
| 24 | ローザ・ボヌール      | 羊               |
| 25 | リボー           | 卵売り             |
| 26 | モンチセリー        | 犬のおめみえ          |
| 27 | ベックリン         | 牧神と美女           |
| 28 | ロセッティ         | 婦人像             |
| 29 | レートン          | 失題              |
| 30 | ピサロ           | ブーヅヴァールのセーヌ河    |
| 31 | 〃             | ルアン港            |
| 32 | 〃             | ポントアーズの菜園       |
| 33 | 〃             | 収穫              |
| 34 | マネー           | オペラの仮装舞踏会       |
| 35 | 〃             | 洒落者ブラン          |
| 36 | バーン・ジョンス      | 慈愛              |

- |    |         |           |
|----|---------|-----------|
| 37 | セザンヌ    | 静物        |
| 38 | シスレー    | モレーの村     |
| 39 | 〃       | サンマンメ六月の朝 |
| 40 | 〃       | 風景        |
| 41 | モネー     | 洪水        |
| 42 | 〃       | 海         |
| 43 | ルノワール   | 少女        |
| 44 | 〃       | カーニュのテラス  |
| 45 | ゴーガン    | 風景        |
| 46 | 〃       | 女の顔       |
| 47 | 〃       | ブルターニュ風景  |
| 48 | ラファエリー  | 老人        |
| 49 | ヴァン・ゴッホ | 花         |
| 50 | ラトウシュ   | 舞台裏の踊子    |
| 51 | スタンラン   | 放課        |
| 52 | コッテ     | 海国の悲哀     |
| 53 | ムンク     | 雪かき人夫     |
| 54 | ブラングィン  | 失題        |
| 55 | デュマレスク  | 奔馬        |

### 浮世絵版画(第一回陳列)

- |    |     |              |
|----|-----|--------------|
| 1  | 師宣  | 花見図          |
| 2  | 師房  | 吉田街道         |
| 3  | 度繁  | 短冊持美人        |
| 4  | 清信  | 立美人          |
| 5  | 〃   | 嵐和可野         |
| 6  | 清倍  | 蚊帳外文読美人      |
| 7  | 政信  | 市川海老蔵助六      |
| 8  | 利信  | 呉服売          |
| 9  | 重長  | 丹前大あたり、市村竹之丞 |
| 10 | 豊信  | 中村喜代三、文読美人   |
| 11 | 清満  | 中村富十郎争い      |
| 12 | 清広  | 尾上菊五郎、坂東彦三郎  |
| 13 | 春信  | 座敷八景         |
| 14 | 〃   | 臥竜梅          |
| 15 | 湖竜斎 | 雄、虚無僧        |
| 16 | 〃   | 風流衣食住略図      |
| 17 | 春重  | 深川楼          |



18 重 政 東西南北，西方美人  
 19 清 長 牡丹畑，扇屋，玉屋，丁字屋  
 20 “ 女 柳 下  
 21 俊 満 六 玉 川  
 22 歌 麿 青楼仁和嘉女芸者  
 23 “ 婦 女 人 相 十 品  
 24 “ 当 時 全 盛 美 人  
 25 栄 之 青楼美撰合，初賀座敷  
 26 “ 風流七小町，あうむ  
 27 栄 昌 廓 中 美 人 競  
 28 春 章 楽屋内中村仲蔵  
 29 “ 東扇，市川団十郎  
 30 春 英 坂 東 八 十 助  
 31 春 好 市川団十郎，暫  
 32 文 調 市川団十郎，中村松江  
 33 写 楽 瀬川富十郎，中村万世  
 34 “ 大谷徳次奴袖助  
 35 豊 国 役 者 舞 台 姿 絵  
 36 北 斎 よつや十二そう  
 37 “ 詩 歌 写 真 競  
 38 “ 牧 馬  
 39 広 重 富 士 川 雪 景  
 40 “ 芙 蓉 黄 鳥

浮世絵版画(第二回陳列)

1 師 宣 け ま り 図  
 2 度 繁 立美人水車模様着衣  
 3 度 辰 簑笠模様着衣立美人  
 4 清 信 萩野沢之巫，松本勘太郎 草子洗  
 5 “ 市村竹之巫，三条勘太郎  
 6 清 倍 小鳥持美人，籠持娘  
 7 政 信 佐野川市松人形遣  
 8 利 信 櫛 壳

9 重 長 小さん金五郎  
 10 豊 信 市村竹之巫富沢門太郎  
 追 羽 子  
 11 清 満 中村八百蔵，坂東彦三郎  
 12 清 広 瀬川菊之巫はり娘  
 13 春 信 風流やつこ七小町  
 14 “ 風流四季六歌仙  
 15 湖竜斎 夏，蚊やり二美人  
 16 “ 風流十二節 元旦  
 17 美 信 江戸町一丁目二美人  
 18 重 政 品川君□の八景  
 19 清 長 飛 鳥 山 花 見  
 20 “ 風 俗 東 之 錦  
 21 俊 満 六 玉 川  
 22 歌 麿 青楼仁和嘉 女芸者  
 23 “ 婦 女 人 相 十 点 浮気の相  
 24 “ 当 時 全 盛 美 人 小 紫  
 25 栄 之 風 流 五 節 句  
 26 栄 木 美人五節句 松葉屋内染之助  
 27 栄 昌 廓 中 美 人 競  
 28 春 章 楽屋内市川団十郎  
 29 “ 東扇中村里好  
 30 春 英 市 川 高 麗 蔵  
 31 春 好 中村仲蔵大首  
 32 文 調 市川八百蔵，中村松江  
 33 写 楽 中島和田左門，中村此蔵  
 34 “ 市 川 高 麗 蔵  
 35 豊 國 役 者 舞 台 姿 絵  
 36 北 斎 きようとくしこはま  
 37 “ 百人一首 うばがえどき  
 38 “ 信州諏訪湖水氷渡  
 39 広 重 月二十八景の内 弓張月  
 40 “ 牡 丹 孔 雀

土 曜 講 座

通算 月日 講 座 講 師  
 回数  
 133 1. 15 (映画) キュービズム 鎗木清方  
 (解説)徳大寺公英氏  
 134 1. 22 観音像をめぐつて 亀井勝一郎氏  
 135 1. 29 わが師マイヨールに就て 山本 豊 一氏  
 (映画) ブルーデル  
 136 2. 5 各国美術館の作品(スライド使用)  
 星 野 愷氏  
 137 2. 12 美術の都フロレンス(スライド使用)  
 三 輪 福 松氏

138 2. 19 (映画) ゲルニカ，見出された芸術  
 (解説)富永 惣 一氏  
 139 2. 26 藤島先生の思出 猪熊弦一郎氏  
 藤島武二に就て 隈元謙次郎氏  
 140 3. 5 (映画) サザーランド  
 ヘップワースの彫刻  
 (解説)ドロシー・ブリトン嬢  
 141 3. 12 日本美術のバリー進出と其影響  
 後 藤 末 雄氏

- 142 3. 19 (映画) ハイチの美術教室,  
画家グランド・ウッド,  
モーゼスお婆さん(以上アメリカ)  
絵画の歩み(フランス)ドリヴァル氏製作
- 143 4. 2 油絵具の優劣の簡易な見分け方と外国製  
及び国産絵具の比較試験 桑原利秀氏
- 144 4. 9 福島コレクションに就て(鼎談)  
梅原竜三郎氏  
福島繁太郎氏  
福島慶子氏
- 145 4. 16 福島コレクションに就て 高島達四郎氏  
新講談ルオーと福島一家 宮田重雄氏
- 146 4. 30 ヨーロッパ絵画とその科学的研究の現状  
寺田春弐氏
- 147 5. 7 (映画) 現代の日本, 鎗木清方  
英国美術家の生活  
(解説) ドロシー・ブリトン嬢
- 148 5. 14 桂の離宮 柳 亮氏
- 149 5. 21 (映画) 室町美術 (解説) 溝口三郎氏
- 150 5. 28 (スライド) 春の桂と秋の修学院  
(解説) 石河光哉氏
- 151 6. 4 絵の技術とは何か(対論) 福島繁太郎氏  
岡本太郎氏
- 152 6. 11 ヘンリー・ミラーの絵 富永惣一氏  
アメリカの絵画 阿部展也氏
- 153 6. 18 ヘンリー・ミラーの小説と絵  
吉田健一氏
- 154 6. 25 演劇随想 千田是也氏
- 155 7. 9 (映画) 十二人の真実家  
(フォト・アート提供)  
(解説) 永井氏  
美術家訪問 (当館提供)
- 156 7. 16 アメリカ, フランス, ブラジルの  
近代美術に就て 荒井竜男氏
- 157 7. 30 新しいデザイン(スライド使用)  
亀倉雄策氏
- 158 8. 6 近東の旅より(スライド使用)  
深井晋司氏
- 159 8. 20 (映画) ユトリロ, マルコポーロの旅,  
坂本繁二郎, キュービズム
- 160 8. 27 滞仏土産話 青山義雄氏
- 161 9. 3 チベットの美術  
エリール・エル・オルソン女史
- 162 9. 10 古画と新画 石井柏亭氏
- 163 9. 17 伊太利美術展祝辞 マルエニ参事官  
伊太利美術の伝統 摩寿意善郎氏
- 164 9. 24 伊太利現代美術に就て 土方定一氏
- 165 10. 1 アメリカ人の悩みと現代美術  
(スライド使用) 山田智三郎氏
- 166 10. 8 都市美に就て 亀井勝一郎氏
- 167 10. 22 (映画) 坂本繁二郎, 美術家訪問  
(第1, 2, 3, 4巻)
- 168 10. 29 最近のヨーロッパ美術(スライド使用)  
佐波甫氏
- 169 11. 5 私のコレクション 石黒敬七氏
- 170 11. 12 日本の写真 津村秀夫氏
- 171 11. 19 松方コレクションに就て 松方三郎氏  
〃 矢代幸雄氏
- 172 11. 26 松方コレクションの浮世絵版画  
高橋誠一郎氏  
〃 近藤市太郎氏
- 173 12. 3 (放送録音) 横山大観は語る  
(解説) 坂崎坦氏
- 174 12. 10 ユトリロとレジエに就て 大久保泰氏  
(映画) ユトリロ
- 175 12. 17 (映画) 梅原竜三郎 川合玉堂  
高村光太郎 鎗木清方  
坂本繁二郎 美術家訪問

## 音楽鑑賞講座

- | 通算<br>回数 | 月日    | 講 座                    | 講 師    |
|----------|-------|------------------------|--------|
| 8        | 1. 9  | 古典派とロマン派の相違            | 門馬直美氏  |
| 9        | 1. 16 | バッハのブランデンブルグ<br>協奏曲に就て | 村田武雄氏  |
| 10       | 1. 23 | 指揮に就いて                 | 渡辺暁雄氏  |
| 11       | 1. 30 | 最近のヨーロッパ楽壇のことども        | 吉田秀和氏  |
| 12       | 2. 6  | ヴァイオリン奏法の歴史            | 岩淵竜太郎氏 |
| 13       | 2. 13 | バッハのカンタータ              | 辻 莊一氏  |
| 14       | 2. 20 | バルトーク                  | 柴田南雄氏  |
| 15       | 3. 6  | 交響曲成立の歴史               | 寺西春雄氏  |
| 16       | 3. 13 | オーケストラの指揮について          | 森 正氏   |
| 17       | 3. 20 | バロック時代の名作オラトリオ         | 服部幸三氏  |

- |    |       |                            |        |    |        |                   |        |
|----|-------|----------------------------|--------|----|--------|-------------------|--------|
| 18 | 4. 3  | 作曲の過程に就いて                  | 諸井三郎氏  | 31 | 9. 25  | バルトーク十年忌に際して      | 柴田南雄氏  |
| 19 | 4. 10 | モーツァルトの歌劇<br>「ドン・ジョバンニ」    | 武石英夫氏  | 32 | 10. 2  | ベートーヴェンヴァイオリン協奏曲  | 渡辺暁雄氏  |
| 20 | 4. 17 | デュパルクと近代歌曲                 | 大宮真琴氏  | 33 | 10. 9  | 芥川也寸志の芸術と意見       | 芥川也寸志氏 |
| 21 | 5. 1  | 現代音楽とジャズ                   | 塚谷晃弘氏  | 34 | 10. 23 | ヨハン・シュトラウス喜歌劇「蝙蝠」 | 武石英夫氏  |
| 22 | 5. 8  | ロシア音楽とソヴェット音楽              | 戸田邦雄氏  | 35 | 10. 30 | モーツァルト歌劇「魔笛」      | 服部幸三氏  |
| 23 | 5. 15 | ベートーヴェン第九交響曲の聴き方           | 渡辺暁雄氏  | 36 | 11. 6  | 無調音楽の成立           | 入野義郎氏  |
| 24 | 5. 22 | 劇、オペラの音楽                   | 団伊玖磨氏  | 37 | 11. 13 | 現代日本の作曲家          | 吉田秀和氏  |
| 25 | 5. 29 | 管楽器の話                      | 中山富士雄氏 | 38 | 11. 27 | ショパンの音楽           | 門馬直美氏  |
| 26 | 6. 5  | 宗教音楽の特質                    | 野村良雄氏  | 39 | 12. 4  | 作曲のからくり           | 長谷川良夫氏 |
| 27 | 6. 12 | 古曲時代のウイーン                  | 渡辺護氏   | 40 | 12. 11 | 新しい音楽の世界          | 黛敏郎氏   |
| 28 | 6. 19 | オペラの話                      | 伊藤武雄氏  | 41 | 12. 18 | 近衛秀麿氏に訊く          | 近衛秀麿氏  |
| 29 | 6. 26 | オイスラフ、シグテイ、<br>ハイフェツの演奏の特質 | 村田武雄氏  |    |        |                   | 山本直純氏  |
| 30 | 9. 11 | オペラ四方山ばなし                  | 藤原義江氏  |    |        | 参会者通計 2871 名      |        |

### レコード・コンサート

前年に引続きレコード・コンサートを毎週土曜日毎に開催し開始以来通算 148 回に達した。

本年度開催回数 48 回 参会者 8222 名

### 夏 期 講 座

夏期夜間講座として臨時に人体実技講習を行った。

会 期 8 月 10 日—14 日

会 場 当 館 講 堂

講 師 伊原宇三郎 猪熊弦一郎 脇 田 和 野口弥太郎  
宮田重雄 宮本三郎

参加人員 68 名

会 費 1000 円 (内記名料 200 円)

実 技 クロッキー、木炭、油絵

### 美術映画の製作

29 年度から着手していた坂本繁二郎氏の記録映画二巻 (色彩と単色各一巻) と美術家訪問シリーズ第四集との撮影編集が終って公開した。それと並んで前田青郎の色彩映画と美術家訪問の続篇が進行中である。

坂 本 繁 二 郎 単色, 400 呎 35m/m, 16m/m 色彩 400 呎 16m/m

#### ス タ ュ ッ プ

製 作……石橋幹一郎  
監 修…ブリヂストン美術館  
映 画 委 員 会  
脚 本……小谷博貞史  
演 出……高場隆史  
撮 影……菊池周博  
アナウンス…高橋博

坂本繁二郎氏 (1882~ ) は現代油絵界の長老の一人であって、早くから郷里久留米近郊に隠棲して自然の迫及に耽っ

て独自の画境と画風とを創造している。このユニークな画家の生活環境と作画態度と生涯における代表作品とを筑紫野を背景にして描出しようとしたのが、この映画の目的である。

単色の方は環境描写に重きをおき、色彩の方は作品に力を注いでいる。

## スタッフ

製作……石橋幹一郎  
 監修…ブリヂストン美術館  
 映 画 委 員 会  
 演 出……高 場 隆 史  
 脚 本……小 谷 博 貞  
 撮 影……高 場 隆 史  
 アナウンス……高 橋 博

第一集から第三集  
 までに現代著名美術  
 家 19 名を収録した  
 が、この第四集では  
 日本画の前田青邨、  
 中村岳陵、油絵の白

滝幾之助、梅原竜三郎、彫刻の朝倉文夫の五氏を収めている。

雑

報

## 松方コレクションについて

——1955 年 11 月 19 日の美術館講堂に於ける講演要旨——

松 方 三 郎

只今松方幸次郎の跡継だとおつしやつたが、実はそうではない。松方というのは、一つしか日本にはないが、ファミリーの中に何百人の松方が居るわけだ。本来は幸次郎の一番尻尾の弟で、その後、幸次郎の養子になつたり、あつちこつちと動いておるので、世の中の人が幸次郎の子供として迎えてくれる時は息子のように甥のように扱われる時は、おじさんがと云い、兄さんがと云われる時は、兄貴がと云つて適当にその都度ビントを合せておる。ことに、コレクションの問題が近頃のようにいろいろ話題にのぼると、松方という名前が出ると、あゝコレクションの松方さんですかと云われる。コレクションそのものを作った松方幸次郎にしても、実は生涯絵を集めておつたのではないので、川崎造船所というれつきとした会社の社長を勤め、明治三十年頃から三十年間にわたつて育てた人間で、死ぬまで自分自身は事業家として終始し、またそれが本命でもあつたのである。たまたま、晩年の後半に集めた絵が彼が死んでから、いろいろと問題になり幸次郎そのものは今から五年前、八十五で亡くなつて居るが世の中の方々からその絵を集めたことを、高く

評価して頂いているわけである。本人はむしろ事業家として、殊に工業生産にたずさわつた一人の実業家として、むしろ日本の為に役に立つたと思つておつたのであろうが、そっちの方は今日では憶えてる人が少なくなり、逆に彼が晩年にやつた仕事は彼の名を永く人の記憶に残すということになつたのである。やつぱりこれも一つの因縁で幸次郎自身思いもかけぬ幸福であつたと思う。

ところで今、こゝに第二回の旧松方コレクションの展観が行われて居るのであるが、二年前に、幸次郎が亡くなつてから三年を記念して、ブリヂストンの同じギャラリーで旧松方コレクションの展観があり、東京にある良いものがぬき出されて展観されそして今回、その第二回が行われたわけである。最初はいられた大きい方の部屋にあるのはまず八分通りは、この前の第一回の時に出たもので、またその大部分はその時はじめて日本で公開されたものであつた。今回は、それに更に、当時、是非その展観に加えたいと云つて御願ひして出なかつた絵が加わつて、第二回の展観ということになつたのである。殊に今度は、その中に浮世絵の

コレクションも入って居る。

これは沢山の絵を買った中で特別な地位を占めるものであつて、丁度この前の第一次世界大戦の最中に、当時川崎造船所の社長をしておつた故人の幸次郎は、英国にずっと長い間滞在して仕事をして居つたのであるが、フランスで 1880 年代から日本の浮世絵をずっと続けて蒐めて居た宝石商で有名なアンリ・ベベールという人があつた。ベベールは丁度パリがドイツの軍隊に脅やかされ、みんな疎開して田舎に行き、政府もゴールドへ移るといふ時代になつて、ベベールさんも自分の三・四十年にわたつて集めた浮世絵のコレクションを持つてゴールドに疎開したわけだ。当時パリの近所まで大砲の弾が落ちるといふ時代で、この歴大なコレクションを何とか処分した方がよいという気があつたのだ。そしてこの絵を買うことについていろいろ世話をした日本の美術商、ロンドンにもパリにも立派な店があつた山中商会に自分のコレクションを誰かに譲りたいということを申しおつたが、その時山中商会のロンドンの支店長だつた岡田さん、今も健在で大阪に居られるが、ともかく今から四十年前の話であるから、日本にも浮世絵のコレクションとして人に見せるに足るだけ系統をもつた豊富なものはなかつた、だから岡田さんはどうかして日本に欲しいと思つてロンドンに居る幸次郎のところへ話を持つて来られたわけだ。幸次郎は、おそらく、浮世絵というものにはインテレストを持つておらなかつたと思うが、日本にあるべきもので、しかも日本に現在全然無い、浮世絵を研究するのにブリティッシュミュージアム、ボストン、シカゴに行つたりするのでは、日本としては甚だ醜態だと云われてみると、日本の為に何とかしなければならぬという氣になつた。幸次郎は岡田さんに「それじやよろしく頼む」と云つて、ロンドンからアメリカへ船に乗つて立つてしまつた。岡田さんも、それじやというのでゴールドに行つて、ベベールのコレクションを見たのである。当時は英仏海峡はドイツの潜水艦が出たりして居る時代で、仲々生命がけの時だつたが二三回ロンドンに行つて、ベベールさんとリストを通して値段をきめ、アメリカに電報した。アメリカから「それじやよろしい、お金はどこ銀行から受取つて呉れ」といふ返事があつてそれきりだつた。そして本人は日本に帰つて何年か経つて浮世絵のコレクションが神戸に着いたわけだ。本人はその時はじめてこの浮世絵のコレクションなるものを見たのであるが、その浮世絵のコレクションを神戸で整理して居る時、私は子供の時で見に行つた。本人は得意で見て居たが、実

は専門家でもなんでもない、第一死ぬまで自分の家の中に立派な絵を掛けることすらして居ない、きわめて質素な生活しかして居ない男であつたので、みんな日本の為になると云つて御願ひすると喜んで引受ける。そういうところにかなり故人の風格が出ておると思う。

この浮世絵は数にして九千枚位あると云われて居るが、その後幸次郎は川崎造船所の社長をして居る時に、昭和二年の経済恐慌があつて銀行が不況に立つた。金を借りて居る方の会社もそれぞれ手を上げてしまい、幸次郎は造船所の責任を負つて社長をやめるといふような状態になつた。この造船所の借金の為の一つの担保に入つておつた浮世絵のコレクションも債権者である銀行側の手に渡つておつた。その後経済界がだんだん持ち直し、造船所も良くなつたし、銀行も良くなつたので、銀行からこのコレクションを皇室の方に献上したのである。皇室は今の国立博物館にまわされて今日国立博物館の所有として国の財産となつておる次第である。これを聞いた時幸次郎は非常に喜んだといふことを聞いておる。のみならず浮世絵を研究する沢山の人が本当に胸をなでおろしたといふことである。

幸次郎は破産という言葉嫌つて、非常に神経質な位その点については氣にしておつた。或る外国の人が雑誌に破産した実業家という英語を使つたのに対して、わざわざ抗議を申込んで訂正さしてもらつたことがある。十五銀行が破産したといふことを云われたが預金者には大変迷惑を掛けておつたが破産したのではなく、責任者はそれぞれいろいろの犠牲を払つたわけで、その点故人は非常に神経を使つて、そう云われることを嫌つておつたわけだ。彼は破産しない代り素寒貧になつて無一文に近い状態に在つた。銀行をこんなにさしたといふことについては相済まんと感じ、非常に潔癖に考えておつたわけだ。

その後造船所は景氣が良くなり、株は騰り、非常に状態が良くなつたので押えておつた財産の一部であるこの浮世絵の処分を如何にすべきかといふことで、当時の責任者十五銀行は帝室の銀行であつたから、そういう因縁もあつて、これをそつくり皇室の方に献上したので、それが廻り廻つて今日の国立博物館に来て居るのである。その九千枚の浮世絵は、そういうことで今日国の公の財産として皆の物になつて居るのであるが、博物館では、これを立派に整理して、今日でも博物館の二階の隅の部屋に行くと、特別の行事のない時は、ごく一部分ではあるが始終代る代るずっと展覧されて居る。この内一切門外に出さないという印のつい

たものもあるので今回この展覧に於てもこの印の附いておる門外不出のものは出て居ない。これは非常に館も大切にしておって、外の光線に当てない、出してもそう長くは出さないことになつて居る。

浮世絵コレクションはその意味で所謂松方コレクションと称せられてるものの中でも特別な地位にあり、西洋美術とは違つた日本としては特別な因縁のあるものである。お陰で今日では日本で浮世絵を研究するのに十分な材料を持つということになつたわけで、その後もどんどん浮世絵の研究も発達して居るし四十年前と今日とは、状態は違うが、とにかく師宣から広重に至る沢山の作家、代表的なものを網羅して日本の博物館に納まつてるといふことは何と云つても研究上有難いことだと私は思う。

このコレクションにはヨーロッパ諸国の沢山の絵があるが、なんとしても、この前の戦争の最中 1911 年頃に主として英国を中心として集めた一つのグループと、戦後 1918 年から 1920 年頃バリを中心として集めたもの、また同じ時代ヨーロッパ北欧等を後で集めたもの等、大体年代的に二色あるのである。しかし内容から見るとそう違いはないが最初に買ったものはやはり粒が細かい。それ程、本気になつて絵を集めようと思つて居ない時代で内容は小さいものが多いが、だんだん絵を集めることに本気になり出してからのものは大きいものも入つて居る。殊に戦後は経済界の変動があつて立派なコレクションを持つて居た人が手放すといふことがある為、案外良いものがその機会に入つて居る。今日日本にないが戦争後アメリカに行つてしまつた絵にセザンヌの有名な「廃屋」と云うのがある。これなんかもドレスデンのコレクションにあつた有名なセザンヌで、戦後ドイツでこれが売りに出て日本に來たのである。セザンヌのもう一枚の「エスタックのマルセーユ湾」と云うのがあるが、これなんかも同じ手で日本に來、更に戦争後日本からアメリカに行つてしまつたのである。戦争の後といふものは、何処でもこういうコレクションの運命に変動のある時で、前の戦争の後で買われたものは今度の戦争の後で日本からまた外へ出て行つてしまつたといふようなこともあるのである。戦争のやむを得ないことであると思うがそういう意味で日本としては折角日本に來たのだから留めておきたかつたといふものが幾つか海外へ出て行つて居る。

そして、もう一つ申し上げたいのは、このコレクションは、今から四十年ばかり前のコレクションであるので、その後有名になつた大家は殆んど無いと云つてい

い。ルオー、マチスという風な人の絵は無い。ピカソは比較的早く若い頃に名を成して居るので初期の優秀なのがあるが、ルオー、マチスのような大家は入つて居ない。何分今から四十年も前でルオーは四十代である、六十を過ぎてからまあ大家という地位を与えられる位フランスの画壇は仲々難かしい。マチスなんかでも、ブリジストンにある「オダリスク」なんか、あんなのは、大体 1924、5、6 年頃の作だと思ふが、そうすると全部コレクションを集めた時分の後の作品なのだ。そして今日は既に忘れられてしまつてゐるようなその頃の大家、アマン・ジャン、コッテ、モーリス・ドニと云つたような人の絵が数多く入つて居る。四十年も前になると、人々の好み、絵に対する見方といふものが變つて居るということが非常に興味ある問題だと思ふ。今ならもつとこんな絵が欲しいといふ絵が多々あると思ふ。

このコレクションはフランスだけでなく英国の絵も多かつた。オランダの絵もあつたし、イタリアのセガンチーニのようなものも入つておる。必ずしもフランスの絵に集中して居たのでなく殊に故人は英国で今も健在で九十歳位になつてゐるサー・フランク・ブランギン、このローヤルアカデミーの大家と親しくしておつたし、殊に最初、英国に居た関係もあつて、英国の絵も相当入つて居たが、爆撃で大部分焼失して居る。ブランギンの画室を、そつくり買つて全部日本に持つて來て、英国の某芸術家の生活は、こういうものだ、そのまゝ日本で再現しようといふことを考えたのであるが、こんなものも恐らく戦争で無くなつたと思ふ。大体ヨーロッパの絵といふものがどういふ環境で生れて來るのかといふことを外国に行けない日本の美術家に知つて貰いたい、日本の絵を描く人達に何かの役に立つだろうという考えであつたので、作品にしても必ずしも氷山のてつぺんのような大家だけをつまみ喰ひするといふのではなく、きわめて広い作家の沢山の、いろいろの絵を集めたのであつた。そういうことでフランスだけではなくたが、戦争が終ると残つたのは結局フランスにあつただけであつた。

戦争になる前に日本に渡つて來た絵は恐らく八百点から千点位あつたと思ふが、度々展覧会が東京や大阪で行われて、それが今日では、各地に散らばつて居るのである。このブリジストンにも所蔵品として随分良いものが入つて居る。

ところが、この前の戦争の後、政府が美術品について非常に重い百パーセントの税をかけたことがあつた。当人から見ればこれは自分の利益の為に買つたの

ではなく、折角皆さんの為に買い、皆さんに役立てて貰おうと思つて居るのに、こんな事なら日本に持つて帰らないというので、フランスやイギリスに折角買った作品が残つてしまつた。英国の数はわからないがフランスには絵が三百七、八十点彫刻六十余点、それが戦争の為敵国人の財産として、政府の保管に移されてしまつた。そして日本は戦争に負けたのだから、そつくり勝つた方の国が自由に処分し得ると桑港の条約で定められたのである。従つて故人松方幸次郎と全然縁が無くなつてしまつたし、日本の国としてもこれを請求する権利を放棄したということになるのである。ところがその後、フランスの政府としては本来このコレクションはヨーロッパの美術を日本に紹介するという目的で集めたものだから、やはりこれは日本に行くのが本当だという考え方を持つたのである。実にフランスらしい有難い考えである。そして条約の結ばれる前から多少話が進んで居たのであるが、条約が結ばれた時に当時日本の代表として桑港に行かれた吉田総理がフランスの外務大臣のシューマンと話し合つて、あの絵だけは返して欲しい、金が欲しいならいくらでも出すから返して欲しいということを云われた。吉田さんは気前の良いことを云われるがとても簡単にはいかない。日本は美術館一つ作るにも四苦八苦して居る。

それじや問題をもういつぱんむしかえそうということになり、今度は政府と政府の間で話が始まつた。足掛四年もいろいろ折衝が行われた結果、フランスに残つて居る旧松方コレクションの大部分を日本に返さうということまで交換公文も取交されて居り、そして

それによつて日本にフランスから帰つて来るものを中心にして美術館を作るということが日本側としても決り、フランス側もそれを前提にして政府の手續をとり、フランスの財産であつて殊に日本に対して仏印の関係もあることだから云い度いこと、しぼり上げたいものが沢山あるのに、この財産としてかなり大きいものを日本に返すのであるから、これは国内的にフランスとしては仲々難かしい点もあつて、まだ国外の手續きが全部済んだとは云えないが、ルールにのつて話が進んでは居るのである。準備としては、ル・コルビジェが美術館の建設予定地を見てプランを立てることになつて居る。美術館が出来ればフランスから問題の絵が日本にやつて来るというわけである。今度来る絵の内容がどんなものであるかということは朝日新聞から出た「松方コレクション」という画集にあるのが、正確なリストと見て良い。その中でフランスとしては国外に出せないというものもあつてリストには載つて居るが実際には来ないものもある。

しかし日本に来る中にもなかなか珍しいものもある。ルノワールの初期の「アルゼリヤ風のパリの女」という大きな絵、また高さ6米35というロダンの「地獄門」等もある。

美術館の計画もそんなわけで段々進んでいるが、絵を買い出してから40年永い間話題になつていた松方コレクションが日本に安住の地を見出すことになつた。私達は一日も早くその日の来るのを願つて居るわけである。(後略、文責在ブリヂストン美術館)

## 松方コレクションの浮世絵版画

——1955年11月27日の美術館講堂に於ける講演要旨——

高橋 誠一郎

松方コレクションの浮世絵版画は実に貴重な大蒐集であつておそらく世界で一二を争うものであると思う。私の記憶して居るところでは総数約八千枚で浮世絵版画が出だしてから幕末に至るまでの最も秀れたものが集まつて居るのであるが、然し、刷りや保存の良否と云うことになるとこれは別の問題であつて非常に疑問の点がある。私の考えでは、これは良いと思われるものは、せいぜい二百枚位ではあるまいか。勿論立派な、オリジナルであるには間違いないが、後刷とか保存状態の悪いものが相当に多いと云う意味である。それでは、どの程度までを良いものと云うかは、一概にきめられないが、兎に角、随分ひどいものが相当に

多い。あまり確かな話ではないが、元来この蒐集はフランス人のアンリ・ベベールが集めたものであるが、ベベールは相当商売気のある男で、これを松方氏にいつたん売つた後で、その中から何枚かの極めて優れた良いものをとりのけておいてから全部売つたかのように見せかけてその良いものだけを別にもう一度入札したとか聞いて居る。然し、確証を持合せて居るわけではないから、或は誤伝かもしれないが、あれだけの大量の中、刷りや保存の点では、秀れたものが余りに少ない様に思われる。

先年アメリカで日本の古美術展覧会を開催したが、サンフランシスコのヤング・ミュージアムで開いた時



にも浮世絵版画を多数陳列した。その際、日本に長く居たことのあるバックカードという人が来て、なぜこんな悪いものを持つて来たのだと私に迫つたのである。これは、どういう意味かと訊くと、このバックカードは日本滞在中に浮世絵版画を、数はあまり多くはなかつたが、ごく秀れたものばかり二百枚位集めたものであつて、それは本当の板おろしの手の切れるようなものばかりである。ところが、これをアメリカへ持つて来て蒐集家や博物館に見せると、すべての人がこれは複製である、あまりきれい過ぎる、こんなきれいなものが二百年も二百五十年も残つて居る筈がない、と云つて相手にしなかつた。そこで今度日本から来た古美術展覧会には、刷りや保存の点で第一流のものばかり陳列してあるに相違ないから、それと自分の集めたものと比べたなら自分の蒐集品がまことに秀れたものであつて決して複製ではないと云う証明になる。そう思つて楽しみにして居たのに、さてこの展覧会に来て見ると、まことに刷りや保存の悪いもの多くて、結局、これが日本にある第一流品であるとする、自分の蒐集品は複製かニセ物と云うことになつてしまう。実に遺憾な話だと云うのである。

前にも述べたように松方コレクションには褪色したものが仲々多い。私は従来から色の褪めたものは避けて、色のあざやかなものばかり選んで買うことにして居るが、それを博物館に持つて行つて松方コレクションのものと比較してみると、色の点では私の方が、ずばぬけて良い。然し、また考えようによつては色が良いだけに何か浅いような気もするのである。色が褪めて居ると、それだけに絵に深味があつて、東洋美術の味があるようにも思われる。であるから、実は、私も、近頃では非常に色の良い板おろしばかり狙うのもどうかと、考えだしたりすることもある。ベペールの集めたものも、そうだと思うが、いつたいフランス人はあまりあざやかな良い色のものを喜ばなかつたらしい。林忠正氏は昔バリで盛んに日本の浮世絵を売つたようだが、聞くところによると売る前に絵を何日か日向に出して曝しておいて色がいくぶんか褪めてから売る、そうするとかえつて高く売れるというのである。色がある程度まで褪めたところになんとも云えぬ良い味が出て来るとも考えられるので、その点から云うと、松方コレクションの品が色の褪めたものが多いから価値がないとは、一概に云い切れない、むしろそこ

に大いに価値があると云えるかも知れない。

また、刷りの点に就ては、あまり古い時代のものになると初刷か後刷かがちよつと判らないの多いのであつて、ごく古い墨刷とか丹絵、紅絵、うるし絵、紅刷絵と云うようなものになると、図柄が良くて保存状態が良ければまず我慢しなくてはならない。然し江戸末期のもの、殊に広重などになるとまだ品物が非常に沢山あつて、名所江戸百景の如きは、どこの画商へ行つてもかならず置いてあるけれども、さて、これの初刷を集めるとなると非常に骨が折れる。やかましく云うと版画は、図柄と刷りと保存と、この三拍子が揃わなくてははいけないのであるが、概して云えば、松方コレクションの版画は、刷りの良くないものと、後刷のものが相当に多い様に思われる。

こう云う風な観点に於て、いささか遺憾な点がないもないが、何と云つても、八千枚もあるのであるから、まず世界に於て一二を争う大蒐集と云えるのであつて、浮世絵の目ぼしいものは林忠正その他の人々によつて、ほとんど外国に出て行つてしまつたので、現在、日本にはいくらか残つて居ない。浮世絵を調べようと思つても、わずかに残つて居る個人の蒐集品を見るより他に方法がない有様であつたところへ、龐大な松方コレクションが国立博物館に入つたのである。ボストン美術館の蒐集に比べて、世界一とは云えないまでも、恐らく第三位とは下らないと考えられる。こう云う貴重な蒐集が日本に帰つて来たのも、これは全く松方さん一人の力によるものと云わなくてはならない。この蒐集が博物館に入つた当時、その価格を全部で僅か六十万円に査定されたそうであるが、当今は浮世絵の価格が非常に騰つて、最近も写楽の大首絵で初刷のものが一枚現れたことがあつたが、保存も良くないし、だいぶ切込であるものが五十万円と称された。また、先年三井家から出たと称される清長の「四条河原夕涼みの図」と「三囲り夕立の図」が、いずれも五千ドルづゝで売れたと云う様な話が伝えられ、また、写楽が二枚、二十五万円づゝで売れたと云うような話も聞いて居るのである。こう云う次第で現在浮世絵の価格が非常に高価になつて来たのであるが松方さんが全部できわめて安く御買いになつたことを思うと、まず良い時に御買いになつたと云えると思う。

(文責在ブリジストン美術館)





BRIDGESTONE GALLERY

1-1 KYOBASHI, CHUOKU, TOKYO, JAPAN



東京都中央区京橋 1ノ1  
ブリヂストン美術館